

ママライター

向中野小学校 二年 菊池 大杜

ぼくが楽しみにしていることは、ママが運転する大きなバイクの後ろに乗ることだ。ママはいつもヨレヨレのハハのTシャツをかりて着ていて、おけしよラもしなりでかわのけば้อนハハ。ママはハハとちがつて、スリツを着て変身することはない。そせがりつちのママ。

そいなママが、ライターにならしり。ほ

くはとてもワクワクした。正ぎの口口のせいせいかろ、ママがカラなん。ママには全く関係ないろしり。ママが、キラキラがやき始めたり。ママのチャレンジが始まつた。今までずつと寝にいたママが、バイクの学校に行くために夜になることが多くなつた。ママもほくと同じようになれるといふと思つた。学校からママが早く帰つて来て、その姿を見つめていたの赤い顔。汗まみえてガソリ

ンくさいのでも、なんだがかつこいい。ママ

は変わつていつた。

ある日、ママはケガをして帰つてきた。右

足に大きなむらさキ色のあざで、ママは絶対にあきらめなかつた。でも、IPは、

「もうあきらめたら? ぼくは心配だよ。」
ママは、

「ちよらせんすることをあきらめたくない。ママが、なんだから、よかつたのはヒューロになつてきただからだ」と、ぼくは思つた。ぼ

くは、ますますママのバイクの後ろに乗るのが楽しきになつてきたり。

「今のもママもぼくはとても大好きだ。」
ママは、学校を卒業した。

「大ちゃん! 二人乗りは免許をとつて一年以上たたないうとダメなんだから、てりまつてても。」

ぼくの樂しきは、一年間のびたのサンタと、

れ、今年のクリスマスプレゼントはヘルメットをください。よろしくおねがいします。